

LOOK
FORWARD

未来をともに進もう。



INVITATION TO
CHAPEL

チャペル案内



Culture & Human Resources

NAGOYA GAKUIN UNIVERSITY

名古屋学院大学



チャペル(礼拝堂)は、キリスト教主義大学である名古屋学院大学にとってシンボルともいえる施設です。本学は、聖書の教えに基づく「敬神愛人」を建学の精神としており、授業期間中、各キャンパスのチャペルではキリスト教の礼拝(チャペルアワー)が行われています。また、入学式や学位記授与式など主な式典もまたキリスト教の礼拝スタイルで行われます。その他にも様々なプログラム・活動が年間を通じて予定されています。

チャペル 活動

本学では、キリスト教への理解を深める行事や活動を、宗教部・キリスト教センターが中心となって実施しています。



チャペルアワー

キリスト教の礼拝です。聖書を読み、賛美歌をうたい、教職員や牧師の方々の語るメッセージに耳を傾ける時間です。

しろとりチャペル 火曜日 13:00~13:30

瀬戸チャペル 金曜日 13:00~13:30

・朝の礼拝

始業前の礼拝です。

・大学創立記念礼拝

大学創立記念日(10月15日)を覚えて礼拝します。

宗教週間

キリスト教行事や社会における折りの課題のテーマにそってチャペルアワーなどを実施しています。

宗教講演会

春と秋に様々な分野で活躍する講師をお招きして宗教講演会を実施しています。

チャペルコンサート

一般の方にも公開し、パイプオルガンをはじめ室内楽等のコンサートを実施しています。



クリスマス

- ・クリスマスツリー点灯式
- ・こどもクリスマス
- ・大学クリスマス礼拝
(名古屋キャンパス・瀬戸キャンパス)



チャペルでの学生活動

- ・聖歌隊
賛美歌の合唱のほか、トンチャイム、ゴスペル、演劇（降誕劇）など様々なジャンルの活動を行っています。



その他の活動

- ・聖書研究会
- ・教職員宗教研修会
- ・オルガンコンサート
- ・チャペルでの奨励、講演を掲載した「麦粒」、
「チャペルブックレット」の発行
- ・ラジオ放送「キリストへの時間」の運営協力
- ・キリスト教センターブログでの発信・更新
<http://blog.ngu.ac.jp/chapel/>



「ラテン語聖書Biblia Latina」

1478年

アントン・コーベルガー印行（ドイツ）

しほり曙館3F図書館・学術情報センター展示

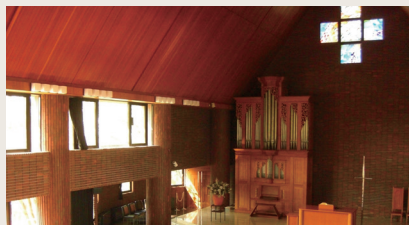
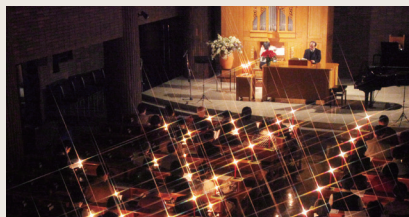
瀬戸キャンパス チャペル

大学創立二十周年事業として1983年9月に献堂。
オランダ製のチャーチベル「希望の鐘」には
“Elpisomen NGU 1983”と銘記。



瀬戸キャンパスチャペル

キリスト教主義大学である本学のシンボル。創立20周年を記念して建造され、その優れた設計により、1984年度の「中部建築賞」を受賞。



ステンドグラス

礼拝堂を飾るステンドグラスは旧約聖書のノアの洪水物語をテーマにして制作され、西面を『希望』、東面を『希望II』という名がつけられました。東西合わせて、旧・新約聖書の“希望”の二部構成となっています。

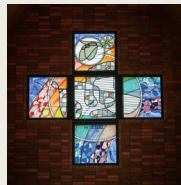
総手づくり北ドイツ伝統様式パイプオルガン

歌う人々の声とよく伴奏し、力強く支えてチャペルに喜びの歌声が満ちあふれるために役立つ楽器として、北ドイツブロック時代の伝統様式が採用され、建造されました。

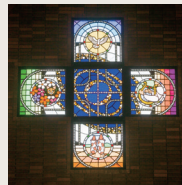


北ドイツオルガン 1984年10月奉獻

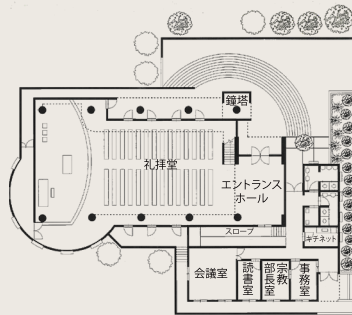
I	HAUPTWERK
	Prestant 8'
	Octave 4'
	Octave 2'
II	Mixtur III-IV
	Rohrflöte 8'
	Cornet IV
	BRUSTWERK
Flötedouce 8'	
Gedackt 4'	
Waldflöte 2'	
Scharf III	
Pedal	Subbaß 16'
	Trompete 8'
	Octave 4'
Tremulant, II-II-P, II-P, III-P	
ストップ数 11	
パイプ数 997本	



ステンドグラス「希望」



ステンドグラス「希望II」



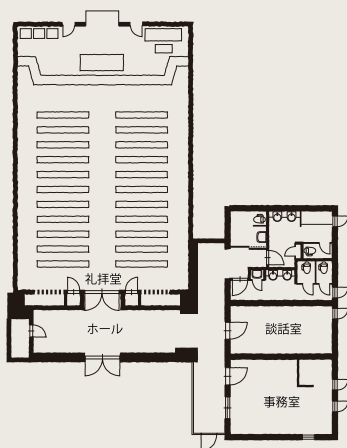
名古屋
キャンパス
しろとりチャペル

名古屋キャンパスが開設された2007年3月に献堂。



名古屋キャンパスしろとりチャペル

レンガの外観と真っ直ぐ空に伸びた鐘塔が特徴のシボルの建物。防音設備が完備された堂内は、道路に面した建物とは思えないほど静かな雰囲気包まれています。



神の栄光のために音を奏でるパイプオルガン

質の高い礼拝のため、会衆の声と共に、声高らかに神を賛美することを第一の目的としたオルガンです。ナラ材を使いバロック時代の様式をベースにした外観。礼拝と共にオルガン作品全般と最高の芸術的な接触を可能にする楽器です。



ガルニエ・オルガン 2019年9月奉獻

I	HAUPTWERK Prästant 6-8' Octav 4' Superoctav 2' Mixture 1 1/2'
	KLEINWERK Gedaekt 8' Kleinflöte 4' Quintlein 1'1/3
Pedal	Subbä 16' Bä 8' (Transmission vom Subbä 16'+letzte Octave von 8')
Umfang Manuale C-f ^{'''} (54 Töne) Umfang Pedal C-f (30 Töne) Barock progressive Stimmung Pedalkoppel I/P ストップ数 9 パイプ数 575本	

名古屋学院大学と建学の精神「敬神愛人」



フレデリック・C・クライン博士



メアリー夫人

フレデリック・C・クライン博士はメソジスト・プロテスタント教会の宣教師として1883年(明治16年)に妻メアリーとともにアメリカから来日しました。横浜での宣教活動の後に1887年に名古屋に拠点を移し、本学の母体となる「名古屋英和学校(当初は私立愛知英語学校)」を名古屋市南武平町(現在中区)に開校しました。

クラインは愛知県初のキリスト教主義学校として、下記の聖句に基づく「敬神愛人」を校訓とし、人格教育に力を注ぎました。この校訓は1964年に開学した名古屋学院大学の「建学の精神」としてそのまま受け継がれています。

メアリー・クラインは、名古屋英和女学校初代校長として明治期の女子教育に貢献し、無教会主義キリスト者で著名な内村鑑三も、1896年から短期間ですが神学部長として名古屋英和学校に在職し、キリスト教的兄弟愛をもって教育を実践しました。ユリシーズ・G・モルフィは1893年に名古屋英和学校に赴任し、明治後期にかけて廃娼運動に関わって女性の人権擁護に尽力しました。名古屋学院大学初代学長の福田敬太郎博士は、真理を追究し、それを明らかにする理念として「幽玄啓明」を唱え、建学の精神である「敬神愛人」との繋がりを強調されました。



イエスは言われた。

「心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」

これが最も重要な第一の戒めである。

第二も、これと同じように重要である。

『隣人を自分のように愛しなさい。』

マタイによる福音書 22章37～39節

(聖書協会共同訳聖書)

名古屋学院大学 キリスト教センター

E-mail: kirisuto-center@ngu.ac.jp
<https://www.ngu.jp/facilities/christian/>

【名古屋キャンパスしろとりチャペル】

〒456-8612 名古屋市熱田区熱田西町1番25号
TEL:(052)678-4096 FAX:(052)682-6822

【瀬戸キャンパスチャペル】

〒480-1298 瀬戸市上品野町1350
TEL:(0561)42-0350(代表) FAX:(0561)42-0629(代表)